

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100632		
法人名	有限会社 佑紀苑		
事業所名	グループホーム佑紀苑 佐賀		
所在地	佐賀市兵庫町大字若宮野中2125番地1		
自己評価作成日	平成30年1月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年2月22日	外部評価確定日	平成30年3月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>情緒あふれる田園風景の中で、入居者の皆様は思い思いに過ごされ明るい苑内にてゆっくりとした時間を過ごされている。それぞれが持っている能力を活かして、時には一緒に食事の準備をしたり、家事を行いながら共に生活している。苑内からは笑い声も多く聞こえ、明るい雰囲気の中で一人ひとりが安心して楽しい生活を送ることができるよう支援を行っている。地域の方々との交流もあり、周囲の皆様やご家族からの温かい支援を頂きながら過ごしている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所開設から16年目を迎え、「地域の中の一つの家」として、地域との交流も盛んで、すっかり地域にとけこんでいる。利用者は地域の敬老会や文化祭、両彼岸のお遍路さんのお接茶にも出かけている。幼稚園とは運動会、夕涼み会、焼きいも会等、また地域の子どもたちとは子ども神輿を通しての交流もある。近所の方から野菜をいただいたり、柿ちぎりに行って、その柿で干し柿を作っている。職員も地域の野良会の奉仕作業に参加したり、利用者と一緒に道路の清掃作業をするなど、積極的に地域に出かけている。</p> <p>日常の支援にあたっては、利用者の尊厳を尊重し、「安らぎと笑いのある楽しい生活」の実現を目指している。職員の笑顔のある優しい言葉かけや支援は、利用者の心に響き、安心感をもたらしている。家族も気軽に面会に訪れている。苑内には、かつての利用者の家族が寄贈した桜の木が花を咲かせ、家族と利用者の信頼関係がうかがえる一例である。職員間の意思疎通も良く、チームワークで利用者第一の支援にあたっている。</p> <p>主治医の週1回の定期的な往診だけでなく、24時間いつでも相談できる関係にあり、医療面でも家族は安心している。</p>
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はすぐに目につく場所に掲示している。入居者の皆様と楽しく笑顔で過ごしたいという想いで業務を遂行している。	「地域の中の一つの家」として地域と共にあることを目指している。支援にあたっては「笑い」を大事にした理念に見直している。職員は理念をいつも目にしながら、意識を高め、理念を実践しながらの日々の支援である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	苑での行事には、地域の方々を招待したり、又地域の行事にもスタッフと一緒に参加したりと地域の方々との交流を行っている。	自治会にも加入し、区費も納入している。回覧板も回ってきている。近所の方から野菜をもらったり、柿ちぎりに近所の家に毎年出かけている。お遍路さん巡礼の接待や、春と秋には清掃活動もしている。職員が「野良会」(地域づくり団体)の活動に参加もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流の場や、又日頃より入居者の方々と接する中でご理解を頂き、地域の方々にも協力頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回、運営推進会議を開催する中で地域の代表の方々、入居者・ご家族・地域包括支援センターより参加頂き、取り組みや状況等の報告を行っている。皆様から出された様々な意見をもとに話し合い、サービスの向上に活かしている。	活動内容や利用者の状況などの報告だけでなく、活発な意見交換や質問が出されている。自然災害に備えての地域との協力体制や避難場所の利用、幼稚園との交流、地域の情報を得て地域行事への参加するなど、会議が有意義に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者には、運営推進会議にも参加して頂き、取り組みや状況の報告を行い助言を頂いたり情報の交換を行っている。	運営推進会議時だけでなく、行政の担当課に直接出かけたり、電話等で相談することも多い。生活保護に関連するもの、介護保険法改正に伴う情報、非常時の直接通報システムの設置問題、研修会の案内など、行政とは協力関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会で理解を深めたり、又身体拘束に関する資料は目につく場所に掲示している。入居者がその人らしく笑顔で生活できるようケアに取り組んでいる。	全職員が、勉強会や外部での研修会等で、身体拘束がいかに利用者の心を深く傷つけるかを十分に認識している。昼間は玄関の施錠もなく、面会者を含めて出入りは自由である。利用者の外出には、職員が連れそっている。家族からの要望があり、家族と十分に話し合いの上で、止むを得ずに、安全確保のためにベットの柵を増やした事例があったが、短期間で終わっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にも参加し、高齢者虐待に関する資料は目につく場所に掲示している。入居者の心身の変化にもいち早く気づくことができるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会もあり、必要に応じ活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者が書類を用いて説明を行っている。入居者やご家族等にご理解して頂き納得された上で署名頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には交代でご家族と入居者に参加して頂き、意見や要望をお聞きするようにしている。又入居者やご家族の意見や要望を尊重し、過ごしやすい環境作りに努めている。	入居時に相談窓口についての説明があり、家族も納得している。ご意見箱の設置もあるが、何よりも利用者と家族がざっばらんに何でも言える雰囲気づくりに努めている。協力医療機関の先生から、怪我のない安全な環境づくりについての助言をもらっている。入浴支援の際の職員の負担軽減や夜間の一人勤務体制に対する家族の不安にも理解を得るようにと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りの際など、職員からの提案や意見を聞き反映するよう努めている。又、話しやすい環境作りに努め代表者へ報告等行っている。	代表者も含めて、話しやすい環境づくりができており、定例会の会議やミーティングで忌憚のない意見や要望が出されている。職員間の関係が良好で、それが利用者への良き支援となって現れている。ケアに関するだけでなく、畑の活用、食材の購入方法、利用者と一緒に環境づくり、そのほか運営に活かされている事例は多い。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望など個々の意見をできる限り尊重し、働きやすい環境作りに努めている。又子育て中の職員に対しても無理なく働くことができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加後は定期ミーティングの際に勉強会を実施し、内容の報告 確認等を行っている。また、資料については回覧や掲示を行っている。職員の負担にならない介護を目指し取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加することで、同業者から意見を聞いたり交流する機会があり事例等を通して学び、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の気持ちに寄り添い、耳を傾けながら安心して過ごして頂けるよう努めている。実際に入居される前に希望があれば体験入居も行っている。また、入居の際には、ご家族の協力を得て住み慣れた自宅になるべく近づけるような環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者のみならず、ご家族の要望や思いにも耳を傾け安心して過ごして頂けるよう関係作りに努めている。面会に見えた際にも状態の報告等を行い、要望をお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の要望をお聞きした上で、どのような支援が必要かを見極め 自分らしく過ごして頂けるようケアの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲内で、一緒に食事の準備や洗濯物畳みなど行いながら 共に助け合い過ごしていく中で関係作りに努めている。時には人生の先輩として教えを仰ぎながら協力して生活を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えた際など、ご家族の要望をお聞きし又情報交換を行いながら協力し共に支援を行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にされてきたものが途切れてしまわぬよう、ご家族からの協力を得ながら外泊・外出の支援も行っている。	利用者は同じ地域に住んでいる方もあり、知り合いや友人が面会に見えたり、一時帰宅の際には、近所の方が寄って来ている。散歩の時、近所の方から声かけがあったり、挨拶も交わしている。地域の敬老会に出席する利用者もある。公園に弁当をもって出かけることもあり、利用者の楽しみのひとつでもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格又、状態を把握しながら一人一人が安心して過ごせるような環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族宅を訪問したり、築いてきた関係が途切れぬよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ひとり一人が自分らしく過ごせるよう、ケアプラン作成時には本人やご家族の希望をお聞きし又、これまでの生活歴や趣味などを参考にプラン作成を行っている。	普段の会話の中や、夜勤の際にお茶を飲みながらこれまでの人生や思い出を話したり、入浴支援の際に思いを聴くことも多い。利用者や指相撲やハグをしたり、目を見て、心の動きや感情を察してもいる。入居時の諸情報と併せて、利用者の意向や思いは、職員間で共有され、支援に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの情報をもとに暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活を共にする中で、その方の生活パターンを把握しバイタルチェックや普段の様子からその時の心身の状態把握を行っている。又、できることはして頂き 有する力現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態に変化があった場合にはご家族や多職種との話し合いを行い現状に即した介護計画を作成している。又、日頃より状態の把握に努め、細かい変化でも申し送りやミーティングの際に話し合いその人らしく過ごせるよう努めている。	介護計画の作成にあたっては、職員全員が参加して、利用者本位に、具体的なプランが検討されている。本人と家族の生活に関する意向が、十分に反映されている。介護経過の記録にも工夫があり、評価や、計画の見直しにも活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心身の状態はもちろん、その時言われた言葉や気持ち、それに対する気づきなども個別記録に記入し職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態や気分の変化など、その時にあった柔軟な支援を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動等に参加したり、散歩の際などには地域の方々と交流を行ったり心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を利用されている方がほとんどだが、急変時でも直ぐに対応できるよう関係が築けている。又、少しの変化でも状態の報告をに対応して頂いている。入居前から利用されているかかりつけ医を継続して利用されている方もおり、受診の際にはバイタル表を用いて状態の報告を行っている。	利用者と家族が希望する病院での受診であるが、ほとんどの方が協力医療機関を希望している。週に1回の定期往診であ。24時間いつでも相談できる関係にあり、定期的な往診日以外にも往診に見えてもらうことも度々ある。病院での受診には、職員も同行支援している。専門科の受診は、家族の協力を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より状態の把握に努め、日々の状態に変化があった場合 看護師へ報告し必要があれば主治医に連絡し 適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には苑での生活状況など、情報を提供し安心して治療できるよう努めている。又、慣れない場所で不安や混乱がないよう 面会にも行き状態の把握にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調等に変化があった場合など本人や家族、担当医 看護師で今後について話し合いを行い 急変時でも迅速に対応できるよう取り組んでいる。入居時には重度化した場合における対応に係る指針 ターミナルケアの指針を本人や家族に説明し同意を得ている。	利用にあたって、丁寧な説明と話し合いが行われている。重度化した場合や看取り介護についても指針をもとに話し合いがもたれているが、最期までここにお世話になりたいと望む方が多い。これまでに看取り介護の事例も数例あり、家族や主治医、関係者と状況に応じて連絡、相談をしている。家族にも泊まってもらっている。最期をむかえた家族から「ここで良かった」との言葉をもらったり、感謝の意を込めて桜の樹の植栽もあっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修への参加で学んだり、担当医や看護師から指導を受け適切な対応ができる様努めている。研修内容は朝の申し送りやミーティングの際に職員一同で確認を行っている。急変マニュアルの掲示も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回 避難訓練 又は消火訓練を実施している。消防隊員の派遣も受け、その際には指導を受けている。実施する際には地域の方にも声をかけ参加をお願いしている。また、水害等の自然災害に関する訓練も行っている。	地元消防団や近隣住民の方の協力を得ての災害対策である。避難訓練は夜間火災の想定であるが、消防署からは、昼間の想定も必要との指導も受けている。自然災害(今回は大雨)時の避難訓練も地域の協力を得ながら、実施している。事業所とは関係は無かったが、近くに消防車や救急車、パトカーが来た時に、近隣住民が、事業所に何かあったのではと、心配して駆けつけてくれたこともあった。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人が安心してその人らしく生活できる様、環境作りや言葉かけを行っている。	利用者の尊厳を尊重することを支援の基本にしている。やさしい語調でのさりげない言葉かけや対応からも、その配慮がうかがわれた。利用者の名前呼び方も、本人の希望を聞き、その方に合わせている。苑だより等に使用する写真についても、できるだけ個人の特長がでにくい様にしている。また、掲載については家族の了承をえている。個人情報の管理もきちんとできている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい生活ができるよう寄り添い、普段の会話の中からも入居者の希望や想いを引き出したり自己決定ができる様言葉かけや環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に合わせて、ゆっくりとしたペースでその人らしい生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一回、美容師の方が来苑されカットやパーマを行っている。又、一緒に洋服を選んだり行事の際や外出の際にはおしゃれができる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に季節のもの取り入れたり、色取りを考えたり楽しんで食事できる様工夫している。又、できる範囲内で一緒に食事の準備や片付けもやっている。	台所での調理の音や香りが利用者の食事への楽しみを増している。近所からいただいたり、職員が持参した旬の新鮮な野菜が食卓にのぼることもある。献立には利用者の希望を取り入れている。季節食の一つのひな祭りには、甘酒の希望が多い。食事介助が必要な方には、声をかけながらゆっくりとした食事時間をとっている。野菜の下ごしらえやテーブル拭きなどを一緒にする等、食事を一日の大切な活動の一つにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を立てバランスの摂れた食事の提供ができています。ひとり一人の状態に合わせて食事形態を工夫し支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に一回 歯科医の方がお見えになり、口腔内の状態を見て頂いている。日々の口腔ケアと義歯洗浄にて清潔の保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し早めのトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンや習慣が把握されている。トイレ誘導も時間だけでなく、様子を察しての支援を行い、トイレでの排泄ができるようにと自立に向けた支援をしている。誘導の声かけもあからさまでない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取にて予防に取り組んでいる。体調や気分配慮しながら体操や散歩にて適度に運動を促したり、慢性的な便秘の方には担当医に相談し下剤にて調節を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や気分配慮しながら入浴を楽しめるよう支援をしている。入浴ができない時には足湯を楽しんで頂いたりその時の状態に合わせて行っている。	週に3回と基本的な入浴日はあるが、希望する方は何時でも入浴できる。入浴時間や入浴順には特別な決まりは無く、その時の状況や希望でゆっくりと時間をとっての入浴である。冬場は脱衣場を温めるなど、ヒートショックにも十分に配慮している。入浴中の支援する職員との会話は、意思疎通の時間でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが自分らしく安心して生活できる様環境作りに努めている。体調や気分配慮に合わせて安眠や休息の支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や新しい薬がでた場合など申し送りを行い職員間で共有している。服薬後の状態も記録し変化があった場合には担当医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	状態や気分配慮しながら、役割を持って頂いたりレクリエーションや外出で気分転換等の支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状態に配慮しながら外出の支援を行なっている。季節ごとの花を見に行ったり買い物へ出かけたり、又ご家族の協力を得て外食などの支援を行なっている。	田園が広がる中の農道を散歩したり、近くの商店に買い物に出かけたりしている。小春日和等太陽の光が気持ち良い時には、外気浴も行っている。注文弁当を持っての花見やひまわりの見学にも出かけている。介護タクシーの利用や家族の協力を得ながらの外食やケーキ屋さんでのお茶もある等、利用者の希望を聴きながらの支援である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった場合などには、やり取りができる様支援したり 贈り物があった場合など、お礼の電話を一緒にかけたりと支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して気持ち良く過ごせるよう環境作りに努めている。リビング内に季節の花を飾ったり、壁画を飾ったりと不快や混乱を招くような刺激がない様	自然の光が差し込む居間は、明るくて静かである。室温や湿度も快適に保たれており、配置を工夫したテーブルやソファで思い思いに過ごしている方が多い。どの共有空間も掃除が行き届き、清潔感がある。テレビは時間帯を決めて視聴している。玄関先には利用者と一緒に植えた球根が芽を出していて、季節を感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思い思いに過ごせるよう席の配置を行なったり環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や気に入ったものを居室内に配置したり自宅にいるような居心地の良い空間づくりができる様支援している。又、居室内にはご家族の写真や手紙なども飾ったりしている。	各居室が家族の協力で、その方らしい居室づくりになっている。利用者の好みや馴染みの物を見受けることができる。長年使ってきた時計や鏡、整理ダンス、趣味の鉢植え、家族との写真、花まるのあるひ孫の習字作品、座椅子や座布団などいろいろな物が見受けられ、落ち着いて居心地良く過ごせる場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが持っている能力を充分に発揮しながら安全に生活できる様工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない